試 案

2020東京五輪の成功に向けた――
「東京の顔出しと 東京から始まる新しい小時代づくりのための
東京プロジェクト(「東京プラザ(仮称)」他) の具体化計画」

「超党派政策会合」
試案作製: 鈴木浩二 総合プロデューサー
顧問: 石原信雄 元官房副長官

Revised in Jan. 2017 / Dec. 2016 **取扱注意**

作業部会資料(2016年12月6日／14日)改訂

東京の顔出しへの開発例

"人(私)が願う世界を、東京・日本が誇る技術、生活・文化産業資源により開発、顧客へ提供する。"

―― *IoT、AI、VR等利用による 新しい成果物と開発・販売場づくり*

イメージワーズ:
プライベート・プロダクツ
／ ファイナル・プロダクツ

消費者が欲する商材を、新しい業態床で承り、高度な「技術／ソフト・コンテンツ」等を駆使して、より早く製品・商品化、顧客へ提供する。

① モノ／物販商材

a. 高付加価値特化商材(レディメイド)
FCV／EV、自動運転車、
スマート・ハウジング商材、

b. 少量多品種商材の製造・販売
カスタマイズ車、ハートフル車、
ロボット、キャラクター&カスタマイズ・トイ、
オーダーウェア、ウェアラブル機器、超福祉機器

② 想いと体験／エンターテインメント商材

人の願い・想い、楽しさの提供を、新しい技術(VR・AI等)とソフト・コンテンツ力(ゲーム、キャラクター等)によって製作・販売。レディメイド商材 + 製造・販売。

・VR商材(ハードシステム、ソフト)の製造と販売
―ゲーム商材、キャラクター・ライセンス商材
・音・映像にかかわる、物販 及び 製作・インキュベート
(登龍門ビジネス)を含むサービス・ビジネス商材
・新しい小時代形成への開発・製造スタジオと、
付加価値情報の発信

―新しい小時代を牽引の 稼げる「東京プラザ(仮称)」 1500坪例 開発姿勢

■A プロデューサーズ・オフィスの人員構成

東京都、オートメーカー、小売、エンターテインメントより計10名

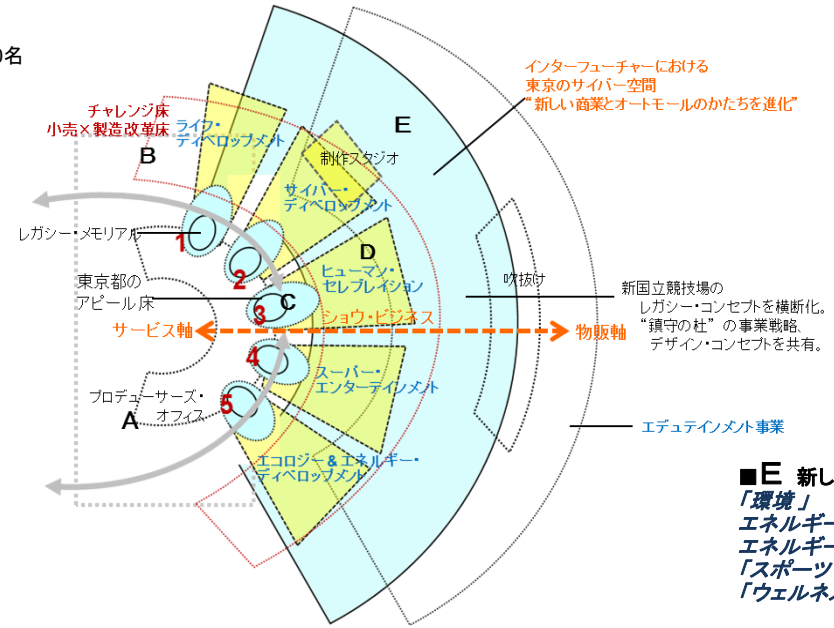
■B チャレンジ床の構成 方針立て

開発テーマへのイメージワーズ:

「エネルギー・フロンティア」
「ライフ・ディベロップメント」
「ハイアメニティ・ドリーム」
「エコロジー・ステージ」
「コミュニティ・ディベロップメント」
「ヒューマン・セレブレイション」
「エンターテインメント・フロンティア」

利用技術

AI
ロボット
VR
IoT
ICT
FCV
Smart City



■C 訴求・販売資源

技術・ライセンス
民生商材・ライセンス
ソフトコンテンツ・ライセンス

東京都運営

■D 事業の形態

「物販・サービス ビジネス」
「ショウ・ビジネス」
「参画型事業」(エデュテインメント含)
「エンターテインメント事業」

■E 新しいオートモールへの事業ゾーニング

「環境」
エネルギー1 「エネルギーと車」
エネルギー2 「エネルギーと街・社会」
「スポーツ& アクティビティ」
「ウェルネス」

■F ショウ・ビジネス形態からの事業の構造化

例)

"オートサロン" 形態	"エコ・プロダクツ" 形態	"ゲーム・ショウ" 形態	"ライセンス・ショウ" 形態	CEATEC 形態
"車と 楽しさ提供" ―車販社核	持続可能な 環境開発	"ツールと楽しさ 提供"―AM・エンタメ事業者核	"ソフト・コンテンツ 保護とライセンス 販売" コンテンツメーカー核	IT・通信事業者、家電メーカー核